



●Kero Kero 通信●

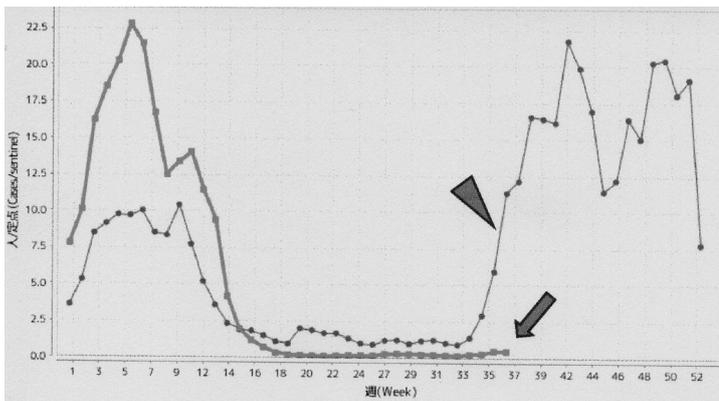


崎山小児科・院内報

10月 2024年

インフルエンザの流行が始まりました

2学期が始まった頃から崎山小児科でもインフルエンザの子どもたちが増えました。近隣の小学校で学級閉鎖もありました。毎年9月頃からこのようなインフルエンザの小さい流行がみられることがあります。下のグラフは東京都内のインフルエンザの流行状況を示したものです。横軸は左から1月1日、右が12月31日の一年間、縦軸は東京都内のインフルエンザの患者数です。▼で示したグラフが昨年で、第34週、つまり8月下旬ころからインフルエンザの流行が始まっていました。10月から開始するインフルエンザワクチンの頃には、「すでにかかってしまったので今年は接種しない」という人も数多くおられました。しかし今年は、矢印で示したようにまだ昨年のような大きな流行の兆しはありません。例年通り冬の流行が予想されます。



マスク、手洗い、アルコール消毒はインフルエンザの流行予防としても有効なので、新型コロナ対策としてこれらを徹底していた2020年から2022年まではインフルエンザの流行はほとんどありませんでした。暑さを感じる季節はもう終わります。マイコプラズマなどにもマスク着用は予防効果が期待できます。人込みの中、電車やバスの中など状況によってマスクをすることをお勧めします。そして、本格的な流行の前に、ぜひインフルエンザの予防接種も受けて下さい。当院では10月1日9:00より予約と接種を開始します。詳細はホームページや院内に置いてある「インフルエンザワクチン説明書2024」をご覧ください。

耳のはなし



耳は、音を伝えたり聞き分けたりする役割や、からだのバランスを知る重要なはたらきをしています。大きく分けると、耳の入り口から鼓膜までの間を外耳、鼓膜のすぐ奥で耳小骨があるのが中耳、三半規管や神経などが集まる中耳の奥が内耳と呼ばれています。

今回は、小児科でよく見かける耳の病気について説明します。

★中耳炎とは

風邪をひくと小さな子ではたびたび中耳炎を併発することがあります。鼻や喉から入った細菌やウイルスが耳管を通って中耳に入ることにより炎症が起こる病気です。鼓膜が赤く腫れたり、中耳に膿がたまって鼓膜を圧迫することから、耳の痛みや耳が詰まった感じ、耳が聞こえにくくなることがあります。さらに熱が出る、頭が痛い、だるいなどの症状も見られることがあります。

鼻水は自力で鼻をかめる子はかんでもらい、できない子はこよりなどでくしゃみをさせてあげたりしておうちでは対処してください。

治療としては、菌を退治する薬や炎症、痛みを抑える薬を使ったり、痛みがひどいときには、鼓膜を切って膿を出すこともあります。腫れが強く自然に鼓膜に穴が空いてどろっとした膿が出てくることもあります。鼓膜は切っても数日でふさがる場合が多いので、心配はありません。膿が出てきた場合や耳を痛がる場合は、診察を受けることをお勧めします。

★外耳炎とは

耳の入口や中が傷ついて起こる病気です。耳が詰まった感じや、かゆみ、痛みなどがあります。耳かきや爪などで耳の入口を傷つけてしまい、そこから炎症が広がったり、プールや海水浴などで汚れた水が耳に入り傷に細菌感染したりすることが原因です。治療としては細菌を退治する薬や炎症や痛みを抑える薬を使います。耳垢は耳のワックスのような役割もあるので、取りすぎなくても大丈夫です。耳掃除は、耳の中を傷つけたり、耳垢を奥に押し込んでしまうことがあります。掃除のしすぎには気をつけましょう。

耳の奥はお家では覗くのは難しいと思います。耳を触るのが眠いときの癖、なんてお子さんもいるかもしれません。痛がったり何か気になることがある場合にはご相談ください。

インフルエンザ・HPV ワクチン臨時接種日:10/20(日)・11/17(日)・12/8(日) / 医療証が10月から新しくなります